

週日の説教

金 大烈 神父 2011年10月27日(木)

《めん鳥が雛を集めるように ～私たちはイエス様に導かれている～》

今日の福音(ルカ13・31-35)を読んで、二つのことを考えました。

一つ目です。幸せになる基準はいろいろありますが、私は、“正しいと思う道を見だし、難しさがあってもその道を歩み抜こうとする人が幸せな人ではないか”と思います。そのような意味で、イエス様は反対の印となり、あちこちから追い出され、責められましたが、自分が歩まなくてはいけないこの道にやりがいや使命を感じていたと思います。そして、そのような気持ちがなければ、この道は絶対に歩めなかったと思います。

イエス様は、人間と全く同じ感情をお持ちの方でしたから、一生懸命に頑張ったのにも関わらず、否定的な評判、命さえ奪おうとする人々の憎しみに囲まれて、本当に辛い気持ちになったと思います。しかし同時に、本当に幸せになるためにはこの道しかない、という固い決心もあったのでしょう。

二つ目です。「めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。」という言葉があります。イエス様が感じられた辛さ、一生懸命に頑張ったのにあまり効果が見えない気持ち、もどかしさ、それが一番よく表れている文章だと私は思います。素晴らしい表現ですよ。ね。「めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。」これは、エルサレムという限られた場所の人々だけでなく、私たち全てに対してもこのような気持ちでご覧になっているのだと思います。

「めん鳥が自分の羽の下に集めるように、あなたがたが正しい道を歩むのをどのくらい私が願ったことか。」という気持ちだと思います。

今日の福音のこの何とも言えないくらい素晴らしい表現は、イエス様が私にくださる言葉でもある、という意識を持ちましょう。

ありがとうございました。